

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																					
キャットミュージックカレッジ専門学校		昭和63年3月30日	美根 宏史		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																					
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																					
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																					
文化・教養	文化・教養専門課程	音楽技術学科音響エンジニア専攻		平成17年文部科学省 告示第176号	-																					
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき音楽技術スタッフに関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																				
2年	昼間	1760	300	300	1160	0																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
120人の内数	79人の内数	1人	9人の内数	19人の内数	26人の内数																					
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																					
長期休み	■学年始め: 4月11日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月21日		卒業・進級条件		前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有		課外活動		■課外活動の種類 なし ■サークル活動: 無																					
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 音楽・音響・照明・映像関連業界 ■就職指導内容 ・企業研修/就活対策講座/業界企業合同説明会 ・CATチャレンジシステム/公開オーディション ■卒業生数 48人 ■就職希望者数 43人 ■就職者数 35人 ■就職率 81% ■卒業者に占める就職者の割合 : 73% ■その他 ・進学者数: 0人 (令和3年度卒業生に関する 令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舞台機構調整技能士 3級</td> <td>③</td> <td>21</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>舞台機構調整技能士 2級</td> <td>③</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>映像音響処理技術者資格認定試験</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>足場組立に係る特別教育</td> <td>①</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 ・サウンドレコーディング技術認定試験 (A～Eランク制) ・ProTools技術認定試験 (A～Eランク制)		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	舞台機構調整技能士 3級	③	21	12	舞台機構調整技能士 2級	③	2	1	映像音響処理技術者資格認定試験	③	1	1	足場組立に係る特別教育	①	21	21
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																							
舞台機構調整技能士 3級	③	21	12																							
舞台機構調整技能士 2級	③	2	1																							
映像音響処理技術者資格認定試験	③	1	1																							
足場組立に係る特別教育	①	21	21																							
中途退学の現状	■中途退学者 7名 令和3年4月1日時点において、在学者90名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者92名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的を実施、個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り登校を促すことで継続意欲を持たせる。		■中退率 8%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	ホームページにおいて公開(URL: http://www.cat.ac.jp/support/subject.html)																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
稗田 奨	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
杉山 徹	ミュージシャン学科 学科長		学校責任者
豊島 芳樹	音楽技術学科 学科長		学校責任者
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者
白藤 浩史	ダンス学科 学科長		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年10月19日 16:30～17:45(オンラインにて実施)

第2回 令和4年3月15日 16:30～17:45(オンラインにて実施)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見: デジタル機器、メディアへの対応力を高めつつ、アナログも大切にしたい。

取り組み: これまでのカリキュラムの基本部分を精査して、よりよく理解を深められるよう改善。更にPCやネットワークの知識、実践を加えて、時代に即した技術者を目指せるよう指導していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

・講師派遣における学内授業の実施

・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣

・前後期試験の実施、作品/実習等における採点、出席率等総合評価を行う

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
レコーディング実習	録音スタジオでの所作から始まり、周辺機器の取扱いや操作方法、その効果を学びます。音楽的な内容が数多く現れる現場として、その作業の進め方を学んでいきます。	Studio INSPIRE
PA実習Ⅱ	ステージ照明/楽器等も考えた音響機器搬入、仕込み設営を行い他業種との現場乗り入れも理解します。サウンドチェック、リハーサル～本番を繰り返して行きます。	RIMM

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校「授業運営に関するガイドライン」に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。計画は教務部が定める年間行事予定において示される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:花組公演「元禄バロックロック／The Fascination!」 内容:演劇舞台での音響、照明効果、及び舞台装置活用の研究
連携企業:宝塚歌劇団 日程:令和3年12月2日 参加対象(教員):技術学科担当教員1名

研修名:劇団四季公演「リトルマーメイド」内容:演劇舞台での音響、照明効果、及び舞台装置活用の研究
連携企業:劇団四季 日程:令和3年10月5日 参加対象(教員):技術学科担当教員1名

研修名:神保明ワマンオーケストラ feat.向谷実、櫻井哲夫 内容:ライブ空間での音響、照明装置活用と効果の研究
連携企業:BillboardLive大阪 日程:令和3年10月18日 参加対象(教員):技術学科担当教員1名

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「お金のセミナー」
内容:社会へ出て音楽活動をする中で、どのようなお金の支出が必要になるのかを知るオンライン講座
連携企業:SMBCコンシューマーファイナンス 日程:令和3年7月8日 対象:教務職員1名

研修名「高校生の心を掴むには何が必要なのか!? 募集にも役立つ、最新トレンド情報と傾向」
内容:高校生の最新トレンドとトレンドを把握するためのノウハウ/訴求できる「インフルエンサー」とその活用事例
連携企業:マイナビ進学 日程:令和4年1月19日 対象:教務職員9名

研修名「テーブルマナー講習」
内容:取引先との会食など様々な場面でスマートな振る舞いで食事をする「たしなみ」を覚える
連携企業:東急REIホテル 日程:令和4年2月26日 対象:教務教員2名

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:星組公演「ディミトリ〜曙光に散る、紫の花〜／JAGUAR BEAT」 内容:演劇舞台での音響、照明効果、及び舞台装置活用の研究
連携企業:宝塚歌劇団 日程:令和4年12月8日 参加対象(教員):技術学科担当教員2名

研修名:劇団四季公演「オペラ座の怪人」 内容:演劇舞台での音響、照明効果、及び舞台装置活用の研究
連携企業:劇団四季 日程:令和4年10月18日 参加対象(教員):技術学科担当教員2名

研修名:(仮)ライブ鑑賞 内容:ライブ空間での音響、照明装置活用と効果の研究
連携企業:BillboardLive大阪 日程:令和4年10月予定 参加対象(教員):技術学科担当教員2名

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「特上ウォーキングのすゝめ」 内容:「ケガ」と「病氣」の予防に向けた「歩き方改革」
連携企業:株式会社アシックスコーポレートサイト 日程:令和4年5月31日
参加対象(教員):カレッジ企画室教員1名

研修名:「広報誌のクリエイティブ内製化」
内容:InDesignを活用した広報制作の内製化
連携企業: 日程:令和5年8月2日 カレッジ企画室教員1名

研修名:「お金のセミナー」
内容:社会へ出て音楽活動をする中で、どのようなお金の支出が必要になるのかを知るオンライン講座
連携企業:SMBCコンシューマーファイナンス 期間:令和5年1月 参加対象:教務職員1名

研修名「オンライン授業のための著作権セミナー」
内容:オンライン授業を行う上で気を付けなくてはならない著作権知識を学ぶ
連携企業等:株式会社ベネッセキャリア 日程:令和5年3月 参加対象(教員):全学科教員90名

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

意見：地域イベントへの貢献、専門性に留まらず幅広い視野を持てて欲しい。

取り組み：学外イベントなどで、学生でも請け負えるものがあれば、積極的に参加させていく。異業種情報、一般教養等を就職指導に絡めて指導している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	卒業生
瀧川 紀征	株式会社リパフォーム 代表取締役会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

公表時期: 令和4年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・学修支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程音楽技術学科 映像制作専攻) 令和4年度															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			音楽業界概論	音響関連企業、照明関連企業、映像関連企業、プロダクション、レーベル、レコード会社等、多岐にわたる業界関連企業を理解して、個々の就職に向けた活動に役立てていける概論です。	1・2年通年	120	8	○			○			
2	○			音楽技術論	音響技術者に必要な基礎知識の習得を目指します。音響学、専門用語を中心に現場作業での実演家に対応する能力を身につけます。	1・2年通年	120	8	○					○	
3	○			技術演習	電気知識を含めた音響機器・楽器・コンピュータ等の取扱いを学び、単に知識習得に止まる事無く、作業的にも技術的にも実際の現場対応を想定したものになります。	1・2年通年	240	16	○						○
4	○			一般教養	仕事への取り組み姿勢、挨拶や敬語の使い方、電話対応、名刺交換の仕方などのビジネスマナーと共に、履歴書の書き方や面接の受け方など就職活動時に役立つスキルを学習します。	1年通年	60	4	○						○
5	○			ハード実習	機材のメンテナンスや現場での応急処置などをするにあたり、実際にケーブル製作や電子機器の作成を行いながらハードウェアに関する知識を習得していきます。	1・2年通年	180	6			○	○			○
6	○			ミキシング	デジタル音響調整卓の取扱いとミキシングの手順と手法を学習、アナログとの対比も含め、自分の耳で判断する為の音楽的知識も含めたものになっています。	1・2年通年	120	4			○	○			○
7	○			Pro Tools	DTM (HDDレコーダー) の取扱いをProToolsを使って行います。CAT独自のシステムによる各学生への音源供給を行い、リアルな音楽環境を再現しています。	1年通年	60	2			○	○			○
8	○			PA実習	学校施設を中心に小規模から中規模程度までの仮設音響機器の取扱いや設置方法を学び、現場と同じような仕込みを繰り返して体感していく実習です。	1年通年	120	4			○	○			○
9	○			レコーディング実習	録音スタジオでの所作から始まり、周辺機器の取扱いや操作方法、その効果学びます。音楽的な内容が数多く現れる現場として、その作業の進め方を学んでいきます。	1年通年	120	4			○	○			○
10		○		レコーディング実習Ⅱ	録音作業を重ねることで、録音現場の統括力を養います。また、録音される音源の特徴を研究することや演奏者とのコミュニケーションについても勉強します。	2年通年	240	8			○	○			○
11		○		PA実習Ⅱ	ステージ照明/楽器等も考えた音響機器搬入、仕込み設置を行い他業種との現場の乗り入れも理解します。サウンドチェック、リハーサルへ本番を繰り返していきます。	2年通年	240	8			○	○			○
12		○		Pro ToolsⅡ	さまざまなProTools作業を理解して、個々の作業レベルを高めます。音楽制作に必要な表現能力を磨き、原盤制作や番組制作を勉強します。	2年通年	120	4			○	○			○
13		○		PA技術	進行するイベントや番組に対応できるように様々な持込音源形態への対応、仕込み、進行指示も含めたPA技術を学びます。	2年通年	120	4			○	○			○
14		○		レコーディング工学	過去から現在までの流れも理解しながら、録音作業に必要な知識の習得、録音機器の取扱いや保守方法、「音」についてのより深い知識を学んでいきます。	2年通年	60	4	○			○			○
15		○		PA演習	PA (SRも含む) 音響機器に関する応用的な使用の研究をします。電源供給と確保、機器メンテナンス、トラブルシュートなど現場対応的なノウハウを習得します。	2年通年	60	4	○			○			○
16	○			イベント制作	学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。	1・2年通年	64	2			○	○			○
17	○			業界研究	依頼される学内外のクライアント主導イベントの制作業務、ガイダンス参加、業界での必要な資格取得への取り組みなど自身の視野を広げる職種研究を行います。	1・2年通年	136	4			○	○			○
合計						14科目	1760単位時間(78単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。	1学年の学期区分	2期
なお、各科目の試験等の内容については、各学科学長及び担任と授業担当者が行う合わせの上決定する。	1学期の授業期間	前期15週、後期15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																					
キャットミュージックカレッジ専門学校		昭和63年3月30日	美根 宏史		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																					
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																					
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																					
文化・教養	文化・教養専門課程	音楽技術学科照明スタッフ専攻		平成17年文部科学省 告示第176号	-																					
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき音楽技術スタッフに関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																				
2	年間	1760	240	540	980	0																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
120人の内数		79人の内数	1人	7人の内数	19人の内数	26人の内数																				
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																					
長期休み	■学年始め: 4月11日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月21日			卒業・進級条件	前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有			課外活動	■課外活動の種類 なし ■サークル活動: 無																					
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 音楽・音響・照明・映像関連業界 ■就職指導内容 ・企業研修/就活対策講座/業界企業合同説明会 ・CATチャレンジシステム/公開オーディション ■卒業生数 48 人 ■就職希望者数 43 人 ■就職者数 35 人 ■就職率 81 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 73 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和3年度卒業生に関する 令和4年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場組立に係る特別教育</td> <td>①</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>照明技術者技能検定</td> <td>③</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>フルハーネス</td> <td>③</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	足場組立に係る特別教育	①	6	6	照明技術者技能検定	③	6	6	ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	1	1	フルハーネス	③	6	6
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
足場組立に係る特別教育	①	6	6																							
照明技術者技能検定	③	6	6																							
ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	1	1																							
フルハーネス	③	6	6																							
中途退学の現状	■中途退学者 7名 ■中途率 8% 令和3年4月1日時点において、在学者90名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者90名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的実施、個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り登校を促すことで継続意欲を持たせる。																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	ホームページにおいて公開(URL: http://www.cat.ac.jp/support/subject.html)																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
稗田 奨	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
杉山 徹	ミュージシャン学科 学科長		学校責任者
豊島 芳樹	音楽技術学科 学科長		学校責任者
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者
白藤 浩史	ダンス学科 学科長		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年10月19日 16:30～17:45(オンラインにて実施)

第2回 令和4年3月15日 16:30～17:45(オンラインにて実施)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:デジタル機器、メディアへの対応力を高めつつ、アナログも大切にしたい。

取り組み:これまでのカリキュラムの基本部分を精査して、よりよく理解を深められるよう改善。更にPCやネットワークの知識、実践を加えて、時代に即した技術者を目指せるよう指導していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後期試験の実施、作品/実習等における採点、出席率等総合評価を行う

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
照明実習	機材の解説や舞台機構の説明など基礎的な部分から始まり、反復練習を行いながら2年間で照明スタッフとして必要な技術を身につけます。2年次は音響と合同でイベントをイメージした授業展開を実施します。	有限会社 ミス・ユー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校「授業運営に関するガイドライン」に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。計画は教務部が定める年間行事予定において示される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:花組公演「元禄パロッドロック／The Fascination!」 内容:演劇舞台での音響、照明効果、及び舞台装置活用の研究
連携企業:宝塚歌劇団 日程:令和3年12月2日 参加対象(教員):技術学科担当教員1名

研修名:劇団四季公演「リトルマーメイド」内容:演劇舞台での音響、照明効果、及び舞台装置活用の研究
連携企業:劇団四季 日程:令和3年10月5日 参加対象(教員):技術学科担当教員1名

研修名:神保明ワンマンオーケストラ feat.向谷実、櫻井哲夫 内容:ライブ空間での音響、照明装置活用と効果の研究
連携企業:BillboardLive大阪 日程:令和3年10月18日 参加対象(教員):技術学科担当教員1名

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「お金のセミナー」
内容:社会へ出て音楽活動をする中で、どのようなお金の支出が必要になるのかを知るオンライン講座
連携企業:SMBCコンシューマーファイナンス 日程:令和3年7月8日 対象:教務職員1名

研修名「高校生の心を掴むには何が必要なのか!? 募集にも役立つ、最新トレンド情報と傾向」
内容:高校生の最新トレンドとトレンドを把握するためのノウハウ/訴求できる「インフルエンサー」とその活用事例
連携企業:マイナビ進学 日程:令和4年1月19日 対象:教務職員9名

研修名「テーブルマナー講習」
内容:取引先との会食など様々な場面でスマートな振る舞いで食事をする「たしなみ」を覚える
連携企業:東急REIホテル 日程:令和4年2月26日 対象:教務教員2名

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:星組公演「デミトリ〜曙光に散る、紫の花〜／JAGUAR BEAT」 内容:演劇舞台での音響、照明効果、及び舞台装置活用の研究
連携企業:宝塚歌劇団 日程:令和4年12月8日 参加対象(教員):技術学科担当教員2名

研修名:劇団四季公演「オペラ座の怪人」 内容:演劇舞台での音響、照明効果、及び舞台装置活用の研究
連携企業:劇団四季 日程:令和4年10月18日 参加対象(教員):技術学科担当教員2名

研修名:仮)ライブ鑑賞 内容:ライブ空間での音響、照明装置活用と効果の研究
連携企業:BillboardLive大阪 日程:令和4年10月予定 参加対象(教員):技術学科担当教員2名

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「特上ウォーキングのすすめ」 内容:「ケガ」と「病氣」の予防に向けた「歩き方改革」
連携企業:株式会社アシックスコーポレートサイト 日程:令和4年5月31日
参加対象(教員):カレッジ企画室教員1名

研修名:「広報誌のクリエイティブ内製化」
内容:InDesignを活用した広報制作の内製化
連携企業: 日程:令和5年8月2日 カレッジ企画室教員1名

研修名:「お金のセミナー」
内容:社会へ出て音楽活動をする中で、どのようなお金の支出が必要になるのかを知るオンライン講座
連携企業:SMBCコンシューマーファイナンス 期間:令和5年1月 参加対象:教務職員1名

研修名「オンライン授業のための著作権セミナー」
内容:オンライン授業を行う上で気を付けなくてはならない著作権知識を学ぶ
連携企業等:株式会社ベネッセiキャリア) 日程:令和5年3月 参加対象(教員):全学科教員90名

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

息元：地域イベントへの貢献、専門性により素晴らしい祝賀を行ってほしい。

取り組み：学外イベントなどで、学生でも請け負えるものがあれば、積極的に参加させていく。異業種情報、一般教養等を就職指導に絡めて指導している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	卒業生
瀧川 紀征	株式会社リパフォーラ 代表取締役会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

公表時期: 令和4年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程音楽技術学科 映像制作専攻) 令和4年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			音楽業界概論	音響関連企業、照明関連企業、映像関連企業、プロダクション、レーベル、レコード会社等、多岐にわたる業界関連企業を理解して、個々の就職に向けた活動に役立てていける概論です。	1・2年 通年	120	8	○			○	○			
	○			音楽技術論	照明の仕事としての舞台用語や歴史、ホールの種類や構造、照明器具類や電気の知識、現場などでの仮設電源に関する知識を学びます。	1・2年 通年	120	8	○			○				○
	○			技術演習	プランナー、チーフ、オペレーターとして必要となってくる知識や技術を習得するための授業です。実践的な仕込み、手書き図面の書き方、曲構成表の作り方、楽譜の読み方や理論などを学習します。	1・2年 通年	240	16		○		○				○
	○			一般教養	仕事への取り組み姿勢、挨拶や敬語の使い方、電話対応、名刺交換の仕方などのビジネスマナーと共に、履歴書の書き方や面接の受け方など就職活動時に役立つスキルを学びます。	1年 通年	60	4			○					○
	○			パソコン演習	パソコン起動から操作方法、タイピング、基本的な使用方法を理解していきます。社会人として必要なスキル（Word、Excel、Power Point）を学習します。	1年 通年	60	4			○		○			○
	○			音響ゼミ	音響と照明は実際の現場では同時に作業を行うことが多いため、お互いの作業を把握するために必要とされる知識を実習を通じて学び、音響工学や著作権についても理解していく内容になります。	1年 通年	60	4			○		○			○
	○			照明ゼミ	基礎的な照明技術を基に、それらを繰り返し応用していく授業です。実際にオーダーがあるイベントの仕込みを行う内容となります。	2年 通年	120	8			○		○			○
	○			舞台製作	平台や箱馬を使用した台の組み方、イントレやトラスの設置方法など大道具に関連する内容を学びます。組んだセットに機材を仕込んだり、照明の当て方などを研究します。	1年 通年	60	2				○	○			○
	○			プランニング実習	フリーCADソフトを使用し、ソフトの使い方や照明の仕込み図面の描き方を学び、学内イベントで使用する仕込み図を作成します。	2年 通年	60	2				○	○			○
	○			メンテナンス	現場や就職先でメンテナンスができるようになることを目的として実施しています。工具の扱い方の学習、延長ケーブル、信号線の作成を行います。	1年 通年	60	2				○	○			○
	○			ムービングライト	ムービングライトの機材構造や仕込み・調整、各シーン作りなどを学習します。PC上のシミュレーションソフトを使用してシーン作りの研究を行います。	2年 通年	120	4				○	○			○
	○			照明実習	機材の解説や舞台機構の説明など基礎的な部分から始まり、反復練習を行いながら2年間で照明スタッフとして必要な技術を身につけます。2年次は音響と合同でイベントをイメージした授業展開を実施します。	1・2年 通年	480	16				○	○			○ ○
	○			イベント制作	学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。照明プラン&図面、仕込み、当日配置やシフト等すべての工程を実施します。	1・2年 通年	64	2				○	○			○
	○			業界研究	依頼される学内外のクライアント主導イベントの制作業務、ガイダンス参加、業界での必要な資格取得への取り組みなど自身の視野を広げる職種研究を行います。	1・2年 通年	136	4				○	○			○
合計					14科目	1760単位時間(84単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。	1学年の学期区分	2期
なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担務者が打ち合わせの上決定する。	1学期の授業期間	前期15週、後期15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																
キャットミュージックカレッジ専門学校		昭和63年3月30日	美根 宏史		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																
文化・教養	文化・教養専門課程	音楽技術学科音楽ビジネス専攻		平成17年文部科学省 告示第176号	-																
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき音楽技術スタッフに関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。																				
認定年月日	平成26年3月31日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技														
2	年間	1760	240	540	980	0	0														
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数															
120人の内数		79人の内数	1人	7人の内数	19人の内数	26人の内数															
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																
長期休み	■学年始め: 4月11日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月21日			卒業・進級条件	前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有			課外活動	■課外活動の種類 なし ■サークル活動: 無																
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 音楽・音響・照明・映像関連業界			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イベント検定</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>文章読解・作成能力検定3級</td> <td>③</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	イベント検定	③	11	11	ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	10	10	文章読解・作成能力検定3級	③	9	9	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																		
イベント検定	③	11	11																		
ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	10	10																		
文章読解・作成能力検定3級	③	9	9																		
中途退学の現状	■中途退学者 7名 ■中途退率 8% 令和3年4月1日時点において、在学者90名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者92名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的実施、個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り登校を促すことで継続意欲を持たせる。																				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																				
当該学科のホームページURL	ホームページにおいて公開(URL: http://www.cat.ac.jp/support/subject.html)																				

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
稗田 奨	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
杉山 徹	ミュージシャン学科 学科長		学校責任者
豊島 芳樹	音楽技術学科 学科長		学校責任者
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者
白藤 浩史	ダンス学科 学科長		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年10月19日 16:30～17:45(オンラインにて実施)

第2回 令和4年3月15日 16:30～17:45(オンラインにて実施)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:個人レベルでインターネットを使った発信が増えているが、著作権の知識が乏しいものが、それと知らず違法なアップロードをしているケースも散見される。

取り組み:「マネージメント実習」において講師が監督のもとSNSへのアカウントを作成し、各SNSにおける発信ルールなどについて指導を行った上でコンテンツの作成、発信を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後期試験の実施、作品/実習等における採点、出席率等総合評価を行う

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
コンサート制作	学外のホール、ライブハウスなどでのイベントを企画開催します。予算管理、アーティストブッキング、プレイガイドでのチケット発券、宣伝、制作、当日の運営までを実習として行います。	有限会社 ヘッドライン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校「授業運営に関するガイドライン」に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。計画は教務部が定める年間行事予定において示される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: イベントツールズウエストジャパン2021 内容: イベント企画・集客コンテンツ・販促のノウハウを学ぶ。

連携企業: 一般社団法人日本イベント産業振興協会 日程: 令和3年5月19日(水)～令和3年5月20日 参加対象(教員): イベント制作指導教員2名

研修名: ネコフェス 内容: イベント企画・集客コンテンツを学ぶ。

連携企業: 清水音楽 日程: 令和3年6月22日(日) 参加対象(教員): イベント制作指導教員3名

研修名: 京都大作戦 内容: イベント企画・集客コンテンツを学ぶ。

連携企業: エコトーン 日程: 令和3年7月3日(土)～7月4日(日) 参加対象(教員): 教務職員8名参加

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「テーブルマナー講習」 内容: 取引先との会食など様々な場面でスマートな振る舞いで食事をする「たしなみ」を覚える

連携企業: 東急REIホテル 日程: 令和3年12月 参加対象(教員): 教務教員2名

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: ネコフェス 内容: イベント企画・集客コンテンツを学ぶ。

連携企業: 清水音楽 日程: 令和4年6月26日(日) 参加対象(教員): イベント制作指導教員2名

研修名: 京都大作戦 内容: イベント企画・集客コンテンツを学ぶ。

連携企業: エコトーン 日程: 令和4年7月2日(土)～7月3日(日)、7月9日(土)～7月10日(日) 参加対象(教員): 教務職員8名参加

研修名: SUMMER SONIC 内容: イベント企画・集客コンテンツを学ぶ。

連携企業: キョードー大阪 日程: 令和4年8月17日(木)～8月21日(日) 参加対象(教員): 教務職員3名参加

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「特上ウォーキングのすゝめ」 内容: 「ケガ」と「病気」の予防に向けた「歩き方改革」

連携企業: 株式会社アシックスコーポレートサイト 日程: 令和4年5月31日 参加対象(教員): カレッジ企画室教員1名

研修名: 「広報誌のクリエイティブ内製化」 内容: InDesignを活用した広報制作の内製化

連携企業: アドビ株式会社 日程: 令和5年8月2日 カレッジ企画室教員1名

研修名: 「テーブルマナー講習」 内容: 取引先との会食など様々な場面でスマートな振る舞いで食事をする「たしなみ」を覚える

連携企業: 東急REIホテル 日程: 令和4年12月 参加対象(教員): 教務教員2名

研修名「オンライン授業のための著作権セミナー」

内容: オンライン授業を行う上で気を付けなくてはならない著作権知識を学ぶ

連携企業等: 株式会社ベネッセキャリア 日程: 令和5年3日 参加対象(教員): 全学科教員90名

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

意見: 専門技術を中心に、より幅広く知識習得、実践経験が積めるような指導を目指してほしい。

取り組み: コロナ禍により中止が相次いでいた野外音楽フェスも再始動を始めており、学外実習として参加を行っている。2021年度は5つの野外音楽フェスにスタッフとして参加した。今年度はすでに2本のイベントに参加しており、昨年度を上回る数のイベントへの参加が予定されている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	卒業生
瀧川 紀征	株式会社リパフォーラ 代表取締役会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

公表時期: 令和4年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程音楽技術学科 映像制作専攻) 令和4年度															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	1	○		音楽業界概論	音響関連企業、照明関連企業、映像関連企業、プロダクション、レーベル、レコード会社等、多岐にわたる業界関連企業を理解して、個々の就職に向けた活動に役立てていける概論です。	1・2年通年	120	8	○			○			
	2	○		音楽技術論	イベント企画や制作知識を深め、自らプランニングした企画を繰り返してプレゼンテーション。自己の意思・考えをわかりやすく相手に伝えるコミュニケーション能力の向上を目指します。	1・2年通年	120	8	○			○			○
	3	○		技術演習	音楽業界人として応用できる技術を様々な演習により学んでいきます。知識、文章作成能力、パソコン操作など多角的に学ぶことにより企画書、提案書類の作成など制作者としてのスキルを身に着けます。	1・2年通年	240	16	○			○			○
	4	○		一般教養	仕事への取り組み姿勢、挨拶や敬語の使い方、電話対応、名刺交換の仕方などのビジネスマナーと共に、履歴書の書き方や面接の受け方など就職活動時に役立つスキルを学習します。	1年通年	60	4	○			○			○
	5	○		パソコン演習	Officeソフト使用方法を中心に学びます。タイピングや操作法、そして様々な書式、表やグラフ作成、プレゼンテーション資料を制作、実際にプレゼンテーションする事も合わせて学んでいきます。	1年通年	60	4	○			○			○
	6	○		ソーシャルメディア	コミュニケーションツールであるソーシャルメディアの活用について学びます。イベント広報等で実際に使用しながら、HPを含むSNS等の情報発信技術の理解を深めます。	1・2年通年	60	4	○			○			○
	7	○		音楽ライターゼミ	文章力の向上を目指し、アーティストインタビュー、CDレビュー、ライブレポートなどの原稿作成を学びます。指定されたフォーマットでの原稿制作やリライト技術も身に付けます。	1・2年通年	60	4	○			○			○
	8	○		コンテンツ制作	ラジオ番組制作を通じて番組制作企画、構成演出、録音、時間管理などを学びます。また、映像、SNSなどコミュニケーション型のWebサイトを考察、コンテンツ制作のノウハウをつかみます。	1・2年通年	120	8				○	○		○
	9	○		メディア制作	音楽雑誌やフリーペーパーの企画、取材、デザイン、編集を実践的に学びます。CDの盤面デザイン、ジャケット制作やライブイベントの宣伝フライヤーの制作に必要なDTPスキルを習得します。	2年通年	120	4				○	○		○
	10	○		DTP	広報媒体制作やプロモーション手段として必要となるコンピュータソフトのIllustratorやPhotoshopの基本操作を学んでいきます。この授業は、他の制作実習にも運動していく内容となります。	1年通年	60	4	○			○			○
	11	○		コンサート制作	学外のホール、ライブハウスなどでのイベントを企画開催します。予算管理、アーティストブックキング、フレイグアイドでのチケット発券、宣伝、制作、当日の運営までを実習として行います。	2年通年	120	4				○	○		○
	12	○		マネージメント	アーティストの発掘や育成、スケジュールなど、プロダクション業務を学習します。またレーベルの業務、プロモーション、ファンクラブ運営、各メディアの特性や著作権についても学びます。	1・2年通年	240	8				○	○		○
	13	○		企画制作	実践的に企画制作を実施する授業。学内の様々な施設を使い、ライブイベントの企画、制作、実施を通し、制作者としての感覚や仕事の進め方を身に付けます。	1・2年通年	120	4				○	○		○
	14	○		音響実習	ライブイベントを運営していく上で必要となる音響に関する基礎知識を学びます。音響機器類の扱い方を身につけ、音響スタッフとの打ち合わせや進行スケジュール作りに役立ちます。	1年前期	30	1				○	○		○
	15	○		照明実習	ライブイベントを運営していく上で必要となる照明に関する基礎知識を学びます。照明機器類の扱い方を身につけ、照明スタッフとの打ち合わせや進行スケジュール作りに役立ちます。	1年後期	30	1				○	○		○
	16	○		イベント制作	他専攻から立案される様々なイベント・コンテンツ等をトータルプロデュースする立場としてのイベント制作や情報発信技術を学びます。互いに協力しながら、実施運営に至るまでの内容を行います。	1・2年通年	80	2				○	○		○
	17	○		業界研究	依頼される学内外のクライアント主導イベントの制作業務、ガイダンス参加、業界での必要な資格取得への取り組みなど自身の視野を広げる職種研究を行います。	1・2年通年	120	4				○	○		○
合計						17科目		1760単位時間(88単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。 なお、各科目の試験等の内容については、各学部長及び担任と授業担当者が行う打ち合わせの上決定する。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	前期15週、後期15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																									
キャットミュージックカレッジ専門学校		昭和63年3月30日	美根 宏史		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																									
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																									
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																									
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																									
文化・教養	文化・教養専門課程	音楽技術学科映像制作専攻		平成17年文部科学省 告示第176号	-																									
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき音楽技術スタッフに関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。																													
認定年月日	平成26年3月31日																													
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																								
2	年間	1760	240	480	1040	0																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
120人の内数	79人の内数	1人	7人の内数	19人の内数	26人の内数																									
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																									
長期休み	■学年始め: 4月11日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月21日		卒業・進級条件		前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																									
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有		課外活動		■課外活動の種類 なし ■サークル活動: 無																									
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 音楽・音響・照明・映像関連業界 ■就職指導内容 ・企業研修/就活対策講座/業界企業合同説明会 ・CATチャレンジシステム/公開オーディション ■卒業生数 48 人 ■就職希望者数 43 人 ■就職者数 35 人 ■就職率 81 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 73 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和3年度卒業生に関する 令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄		資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																											
中途退学の現状	■中途退学者 7名 令和3年4月1日時点において、在学者90名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者92名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的実施、個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り登校を促すことで継続意欲を持たせる。		■中退率 8%																											
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																													
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																													
当該学科のホームページURL	ホームページにおいて公開(URL: http://www.cat.ac.jp/support/subject.html)																													

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
稗田 奨	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
杉山 徹	ミュージシャン学科 学科長		学校責任者
豊島 芳樹	音楽技術学科 学科長		学校責任者
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者
白藤 浩史	ダンス学科 学科長		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年10月19日 16:30～17:45(オンラインにて実施)

第2回 令和4年3月15日 16:30～17:45(オンラインにて実施)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:デジタル機器、メディアへの対応力を高めつつ、アナログも大切にしたい。

取り組み:これまでのカリキュラムの基本部分を精査して、よりよく理解を深められるよう改善。更にPCやネットワークの知識、実践を加えて、時代に即した技術者を目指すよう指導していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後期試験の実施、作品/実習等における採点、出席率等総合評価を行う

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
映像制作実習	イベントライブ収録を行います。事前打ち合わせ、機材準備、当日仕込み、リハーサル等、デレクター指示によるカメラワークも学びます。	株式会社 アンドムービー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校「授業運営に関するガイドライン」に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。計画は教務部が定める年間行事予定において示される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 花組公演「元禄バロックロック／The Fascination!」 内容: 演劇舞台での音響、照明効果、及び舞台装置活用の研究
連携企業: 宝塚歌劇団 日程: 令和3年12月2日 参加対象(教員): 技術学科担当教員1名

研修名: 劇団四季公演「リトルマーメイド」内容: 演劇舞台での音響、照明効果、及び舞台装置活用の研究
連携企業: 劇団四季 日程: 令和3年10月5日 参加対象(教員): 技術学科担当教員1名

研修名: 神保明ワンマンオーケストラ feat. 向谷実、櫻井哲夫 内容: ライブ空間での音響、照明装置活用と効果の研究
連携企業: BillboardLive大阪 日程: 令和3年10月18日 参加対象(教員): 技術学科担当教員1名

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「お金のセミナー」

内容: 社会へ出て音楽活動をする中で、どのようなお金の支出が必要になるのかを知るオンライン講座
連携企業: SMBCコンシューマーファイナンス 日程: 令和3年7月8日 対象: 教務職員1名

研修名「高校生の心を掴むには何が必要なのか!? 募集にも役立つ、最新トレンド情報と傾向」
内容: 高校生の最新トレンドとトレンドを把握するためのノウハウ/訴求できる「インフルエンサー」とその活用事例
連携企業: マイナビ進学 日程: 令和4年1月19日 対象: 教務職員9名

研修名「テーブルマナー講習」

内容: 取引先との会食など様々な場面でスマートな振る舞いで食事をする「たしなみ」を覚える
連携企業: 東急REIホテル 日程: 令和4年2月26日 対象: 教務教員2名

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 星組公演「デミトリ〜曙光に散る、紫の花〜／JAGUAR BEAT」 内容: 演劇舞台での音響、照明効果、及び舞台装置活用の研究
連携企業: 宝塚歌劇団 日程: 令和4年12月8日 参加対象(教員): 技術学科担当教員2名

研修名: 劇団四季公演「オペラ座の怪人」 内容: 演劇舞台での音響、照明効果、及び舞台装置活用の研究
連携企業: 劇団四季 日程: 令和4年10月18日 参加対象(教員): 技術学科担当教員2名

研修名: 仮)ライブ鑑賞 内容: ライブ空間での音響、照明装置活用と効果の研究
連携企業: BillboardLive大阪 日程: 令和4年10月予定 参加対象(教員): 技術学科担当教員2名

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「特上ウオーキングのすゝめ」 内容: 「ケガ」と「病氣」の予防に向けた「歩き方改革」
連携企業: 株式会社アシックスコーポレートサイト 日程: 令和4年5月31日
参加対象(教員): カレッジ企画室教員1名

研修名: 「広報誌のクリエイティブ内製化」
内容: InDesignを活用した広報制作の内製化
連携企業: アドビ株式会社 日程: 令和5年8月2日 カレッジ企画室教員1名

研修名: 「お金のセミナー」
内容: 社会へ出て音楽活動をする中で、どのようなお金の支出が必要になるのかを知るオンライン講座
連携企業: SMBCコンシューマーファイナンス 期間: 令和5年1月 参加対象: 教務職員1名

研修名「オンライン授業のための著作権セミナー」
内容: オンライン授業を行う上で気を付けなくてはならない著作権知識を学ぶ
連携企業: ベネッセiキャリア 期間: 令和5年3月 参加対象: 全学科教員90名

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

意見: 地域イベントへの貢献、専門性に留まらず広い視野を持たせて欲しい。

取り組み: 学外イベントなどで、学生でも請け負えるものがあれば、積極的に参加させていく。異業種情報、一般教養等を就職指導に絡めて指導している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	卒業生
瀧川 紀征	株式会社リバフォー 代表取締役会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

公表時期: 令和4年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・学修支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程音楽技術学科 映像制作専攻) 令和4年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			音楽業界概論	音響関連企業、照明関連企業、映像関連企業、プロダクション、レーベル、レコード会社等、多岐にわたる業界関連企業を理解して、個々の就職に向けた活動に役立てていける概論です。	1・2年 通年	120	8	○			○	○			
2	○			音楽技術論	映像関連技術者に必要な基礎知識の習得を目指します。映像工学、映像演出、専門用語を中心に現場作業における対応能力を身につけます。	1・2年 通年	120	8	○			○				○
3	○			技術演習	電気知識を含めた映像機器・簡易照明・コンピュータ等の取扱いを学び、単に知識習得に止まる事無く、作業的にも技術的にも実際の現場対応を想定します。	1・2年 通年	240	16		○		○				○
4	○			一般教養	仕事への取り組み姿勢、挨拶や敬語の使い方、電話対応、名刺交換の仕方などのビジネスマナーと共に、履歴書の書き方や面接の受け方など就職活動時に役立つスキルを学習します。	1年 通年	60	4		○		○				○
5	○			パソコン演習	パソコン起動から操作方法、タイピング、基本的な使用方法を理解していきます。社会人として必要なスキル (Word, Excel, Power Point) を学習、その後に映像編集等で使用するソフトにも着手します。	1年 通年	60	4		○		○				○
6	○			作品制作ゼミ	実践的に作品制作を実施する授業。学内の様々な施設を使い、ライブイベントを含む企画、制作、実施を通し、制作者としての感覚や仕事の進め方を身に付けます。	2年 通年	120	8		○		○				○
7	○			映像音響技術	イベントや番組、また自然音が流れる収録現場の様々な音源の形態への対応を考え、仕込みや進行指示も含めた音響収録技術を学びます。	1・2年 通年	240	8			○	○				○ ○
8	○			映像制作実習	学外のホール、ライブハウス等でのイベントライブ収録を行います。事前打ち合わせ、機材準備、当日仕込み、リハーサル等、テレクター指示によるカメラワークも学びます。	1・2年 通年	240	8			○	○				○
9	○			作品制作実技	収録作業を行い撮影現場の統括力を養います。他の技術スタッフや被写体となる演者/演奏者とのコミュニケーションについても勉強します。	1・2年 通年	360	12			○	○				○
10	○			イベント制作	学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。	1・2年 通年	80	2			○	○				○
11	○			業界研究	依頼される学内外のクライアント主導イベントの制作業務、ガイダンス参加、業界での必要な資格取得への取り組みなど自身の視野を広げる職種研究を行います。	1・2年 通年	120	4			○	○				○
合計					11科目	1760単位時間 (82単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。 なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担務者が打ち合わせの上決定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	前期15週、後期15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																					
キャットミュージックカレッジ専門学校		昭和63年3月30日	美根 宏史		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																					
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																					
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																					
文化・教養	文化・教養専門課程	音楽技術学科ギタークラフト専攻		平成17年文部科学省 告示第176号	-																					
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき音楽技術スタッフに関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																			
2年	昼間	1880	240	240	1400	0	0																			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
120人の内数	79人の内数	1人	7人の内数	19人の内数	26人の内数																					
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																					
長期休み	■学年始め: 4月11日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月21日		卒業・進級条件		前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有		課外活動		■課外活動の種類 なし ■サークル活動: 無																					
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 楽器製造・卸・販売及び音楽関連業界 ■就職指導内容 ・企業研修/就活対策講座/業界企業合同説明会 ・CATチャレンジシステム/公開オーディション ■卒業生数 48人 ■就職希望者数 43人 ■就職者数 35人 ■就職率 81% ■卒業者に占める就職者の割合 : 73% ■その他 ・進学者数: 0人 (令和3年度卒業生に関する 令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄		資格・検定名	種	受験者数	合格者数																
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
中途退学の現状	■中途退学者 7名 令和3年4月1日時点において、在学者90名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者92名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的実施、個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り登校を促すことで継続意欲を持たせる。		■中退率 8%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	ホームページにおいて公開(URL: http://www.cat.ac.jp/support/subject.html)																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
稗田 奨	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
杉山 徹	ミュージシャン学科 学科長		学校責任者
豊島 芳樹	音楽技術学科 学科長		学校責任者
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者
白藤 浩史	ダンス学科 学科長		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年10月19日 16:30～17:45(オンラインにて実施)

第2回 令和4年3月15日 16:30～17:45(オンラインにて実施)

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:(楽器店などへの就職を希望する学生が増え、工場など製造関係希望者が減少している状況について)楽器がどういった現場で製作されているか、日本国内に優れた技術を持った楽器工場があることを知らない若者が増えているのではないかと。楽器を扱う職業全般に、深い知識が必要とされることから、様々な業種に触れる機会が必要なのではないかと。

取り組み:2021年度はコロナ感染拡大の影響で例年1年生が参加していた工場見学ができなかったが、楽器工場の職人や楽器店販売員、ローディー・テックによる特別授業など様々なジャンルのスペシャリストを招いて特別授業を実施。学生本人が、より広い視野をもって卒業後の進路を考える機会を作る取り組みを行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後期試験の実施、作品/実習等における採点、出席率等総合評価を行う

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
クラフト実習	スタンダードモデルのコピーからフルオリジナルまで、ギター・ベースの製作を行います。具体的な工具の使用法、木工加工、塗装や組み込み等の製作工程などを基礎から順序を追って学びます。	松原工房
技術演習	エレキギター・ベースと周辺機器、音響機器などの電気回路について学びます。また、エフェクター製作やアンプ等の修理を通して基本的な電気回路の設計や半田付けの技術などを習得します。	カナヤ光輪株式会社LM楽器部2nd factor

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校「授業運営に関するガイドライン」に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。計画は教務部が定める年間行事予定において示される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 押尾コータロー氏特別研修 内容: 日本を代表するソロギタリスト・押尾コータロー氏のステージングや機材、音響的側面の技術等についての特別研修。

連携企業: コータロー音楽事務所 日程: 2021年8月3日 参加対象(教員): クラフト技術指導教員

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: もう一つのトヨタデザイン～BtoBデザインの挑戦～

内容: スペックの掲載だけに頼らない、BtoBの広告や販促物の新たなデザインについて

連携企業: (株)豊田自動織機 トヨタL&Fカンパニー 日程: 2021年11月2日 参加対象: 企画制作教員

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: coldrain・KATSUMA氏ドラムクリニック

内容: 日本を代表するラウドロックバンドのドラマーによるクリニック。普段指導内容の中心となるギター・ベース以外のドラムについてプロアーティストのクリニックを受け、同バンドの特徴的な同期音源等のシステムにも触れることで、現在の音楽シーンを知り、授業内での指導力向上を図る。

連携企業: 株式会社GRIP 日程: 2022年7月21日 参加対象: クラフト技術指導教員 1名

研修名: 岐阜・愛知楽器工場見学

内容: 岐阜・愛知の楽器工場を見学し、楽器製造の現状について理解を深める。

連携企業: 株式会社神田商会、株式会社寺田楽器、アイチ木材加工 日程: 2022年7月26日～7月27日 参加対象: クラフト技術指導教員

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「特上ウォーキングのすすめ」 内容: 「ケガ」と「病氣」の予防に向けた「歩き方改革」

連携企業: 株式会社アシックスコーポレートサイト 日程: 令和4年5月31日

参加対象(教員): カレッジ企画室教員1名

研修名: 「広報誌のクリエイティブ内製化」

内容: InDesignを活用した広報制作の内製化

連携企業: アドビ株式会社 日程: 令和5年8月2日 カレッジ企画室教員1名

研修名: 「お金のセミナー」

内容: 社会へ出て音楽活動をする中で、どのようなお金の支出が必要になるのかを知るオンライン講座

連携企業: SMBCコンシューマーファイナンス 期間: 令和5年1月 参加対象: 教務職員1名

研修名「オンライン授業のための著作権セミナー」

内容: オンライン授業を行う上で気を付けなくてはならない著作権知識を学ぶ

連携企業: ベネッセiキャリア 期間: 令和5年3月 参加対象: 全学科教員90名

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

意見: アートを扱う業界に関わる以上、学校と云えど一企業として一般へ向けた活動にも力を注ぎ、社会に貢献していくことも考えていってほしい。
 活用状況: 三重県・尾鷲市や外部企業と協力し、SDGs に向けた取り組みに参加。
 ギタークラフト専攻2年生が中心となり、「国産木材を使用したギターの量産に向けての研究」のため国産檜・杉材を使用したギター製作を進めている。学生の技術向上と、国産木材やSDGsへの理解を深める取り組みとなる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	企業等委員
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	卒業生
瀧川 紀征	株式会社リバフォール 代表取締役会長	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

公表時期: 令和4年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程音楽技術学科 ギタークラフト専攻) 令和4年度																		
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	時間数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
1	○			楽器業界概論	楽器ブランドやメーカーの成り立ちを楽器の歴史を織り交ぜながら学習していきます。将来進んでいく楽器業界そのものを理解することで、就職活動などに生かしていくことを目的とした授業です。	1・2年通年	120	8	○			○	○					
2	○			音楽技術論	ギター・ベースについて基本的な構造や製作工程、使用する工具の取り扱いなどを学び、実際にクラフト実習で製作する作品のプランニング・設計～図面作成を行います。取り扱いが難しく復元の方法も限定されるオールド楽器の特徴を、調整・修理の際に必要なとなる楽器別の知識や注意点を合わせて学びます。オールド楽器への理解を深めること。	1・2年通年	120	8	○			○				○		
3	○			技術演習	エレキギター・ベースと周辺機器、音響機器などの電気回路について学びます。また、エフェクター製作やアンプ等の修理を通して基本的な電気回路の設計や半田付けの技術などを習得します。	1・2年通年	240	16		○		○				○	○	
4	○			クラフト実習	スタンダードモデルのコピーからフルオリジナルまで、ギター・ベースの製作を行います。具体的な工具の使用法、木工加工、塗装や組み込み等の製作工程などを基礎から順序を辿って学びます。	1・2年通年	600	20				○	○				○	○
5	○			リペア実習	エレキからアコースティックまで、さまざまなギター・ベースの修理・調整を習得する授業です。作業を効率化するための工具製作や、基本的なリペアをより発展させた応用技術も扱います。	1・2年通年	420	14				○	○				○	
6	○			音響基礎	音響に関する知識を学び、ステージで使用されるアンプや音響機器（ミキサー、マイク等）の取扱い等を習得、実際の現場を想定したアーティストとのコミュニケーション能力を高めます。	1・2年通年	180	6				○	○				○	
7	○			イベント制作	授業で製作した作品の展示会や中古楽器販売の模擬実習等の企画・運営を通して、楽器を扱うスペシャリストとしての知見を広める実習を行っています。	1・2年通年	64	2				○	○				○	
8	○			業界研究	楽器業界について様々な角度から研究する授業です。業界就職についての対策講座や、楽器工場・メーカーの見学、他専攻・講師等から持ち込まれる楽器に対してよりリアルに技術を磨いていきます。	1・2年通年	136	4				○	○				○	
合計						8科目	1880単位時間(78単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。 なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者で打ち合わせの上決定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	前期15週、後期15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。